

奈良県橿原市で実施した災害研修のために、橿原市の災害を調べました！

調査日時：2019年11月13日~18日

調査方法：奈良県発行の地震想定と洪水想定、また、橿原市発行のハザードマップマップを基に被害を考察する。

*「奈良県の保健師を対象に『保健師の災害対応の強化』研修を実施しました！」参照

今回の見どころ

奈良県の保健師を対象とした「保健師の災害対応の強化」研修を行うことになりました。研修では奈良県橿原市で大規模地震が発生し奈良県保健師が橿原市の支援要請を受け、避難者のピックアップを行う想定です。要請を受けるのは県保健師のため、被災地である橿原市の現状がよく分からないはずで、よって研修では橿原市の被害から共感が持てるものを選んでもらいます。そこで、奈良県と橿原市で起こりえる災害について事前に調べました。橿原市にはどのようなリスクがあり、生活に影響がある被害とはどのようなものでしょうか。

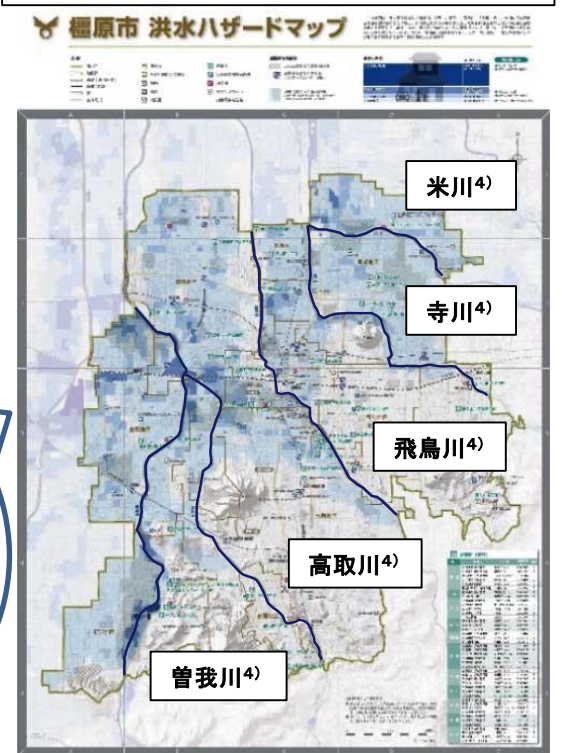
調査結果

出典 1) 橿原市洪水ハザードマップ <https://www.city.kashihara.nara.jp/article?id=5c3524aff1a7f00f31b1f5cb>
 2) 奈良県第2次奈良県地震被害想定調査結果(揺れ・液状化) 内陸型地震1(奈良盆地・中央構造線・生駒・木津川断層帯) <http://www.pref.nara.jp/40777.htm>
 3) 橿原市地震ハザードマップ <https://www.city.kashihara.nara.jp/article?id=5c3524aff1a7f00f31b1f5c1>
 4) 奈良県洪水浸水想定区域図 <http://www.pref.nara.jp/15310.htm>



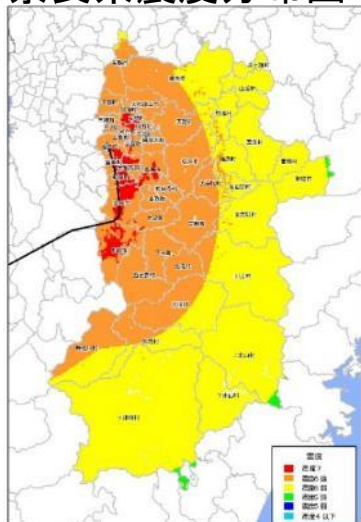
奈良県は、紀伊山地・生駒山地に囲まれた奈良盆地に街ができています。第2次奈良県地震被害想定結果(奈良県発行)の想定では、奈良盆地東縁断層帯と中央構造線断層帯のリスクが高く、震度5以上となる可能性があった。橿原市は、その二つの断層に挟まれた位置にある。

橿原市洪水ハザードマップ¹⁾



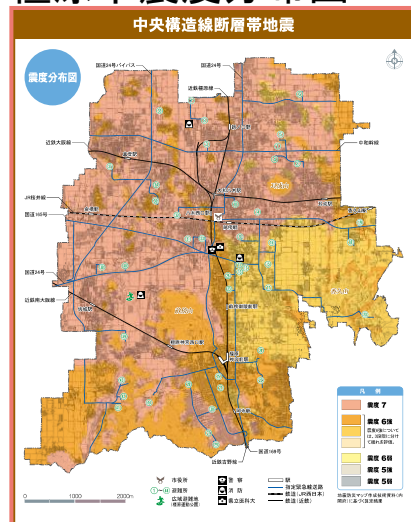
中央構造線断層帯

奈良県震度分布図²⁾



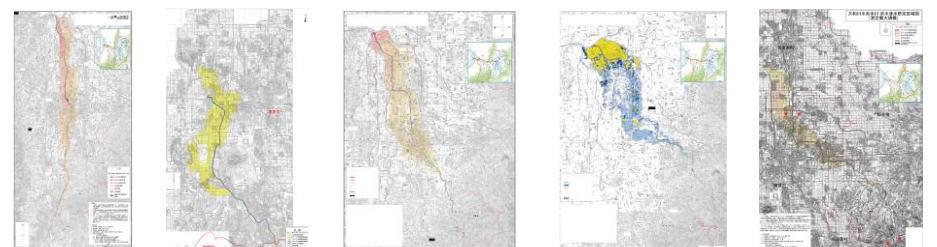
奈良県全域で震度6の地震が発生する想定である。

橿原市震度分布図³⁾



橿原市は全域で震度6が想定されるが、山間部での震度は周辺に比べ小さい。

橿原市の震度分布図と洪水ハザードマップを比較すると、同じ地域で、色が濃くなっており、被害が大きくなることが分かりました。



曾我川⁴⁾ 高取川⁴⁾ 飛鳥川⁴⁾ 寺川⁴⁾ 米川⁴⁾

[洪水浸水想定区域図⁴⁾] 5本の河川は橿原市を流れ、大和川に合流し大阪湾へ行きつく。

考察

橿原市の震度分布図から、山間部は想定被害が小さく地盤が固いと考えられます。また洪水ハザードマップと比較すると、両方の図からは同じ地域で被害が大きくなることが分かりました。これは地盤が緩いのではないかと推察しました。奈良県地域防災計画に記載されている過去の災害では、台風による水害や強風被害が多く紹介されていましたが、地震被害に関してはあまり記載がありませんでした。私は、奈良県の被害といえば台風被害であり、地震に関しては安全だと思っていました。しかし、実際は奈良県全域で震度6以上が想定されていることが分かりました。このような地震によって地割れや土砂崩れが起き、住民の生活に大きな影響がでることが考えられます。